

平成18年度

各 会 計 決 算 状 況

秋 田 県 湯 上 市

# 主要施策成果説明書

## 1. 一般会計

平成18年度一般会計当初予算額は118億6,800万円で、その後補正増額され最終予算額は127億1,994万1千円となりました。

歳入決算額は129億1,058万8千円、歳出決算額は123億6,340万3千円、歳入歳出差引額は5億4,718万5千円で、平成19年度への繰越財源945万9千円を差し引いた実質収支は5億3,772万6千円となりました。

歳入の主なものとしては、市税が22億9,077万円で歳入全体の17.7%、地方交付税が57億1,950万3千円で歳入全体の44.3%、国庫支出金が10億3,449万1千円で歳入全体の8.0%、県支出金が6億6,247万6千円で歳入全体の5.1%、市債が9億9,790万円で歳入全体の7.7%となりました。

国庫支出金の主なものは、生活保護費関係で4億4,795万8千円、障害者福祉関係で1億6,721万6千円、児童福祉関係で1億4,850万3千円、合併による各種計画の策定、道路台帳整備など、住民の一体性を速やかに構築するための事業に対する合併市町村補助金として9,840万円がありました。また、合併市町村補助金が1億845万円減ったことや前年度の豪雪による臨時市町村道除雪事業費補助金1億1,750万円がなくなったことなどにより、前年度比1億8,279万9千円(15.0%)の減となりました。

県支出金の主なものは、児童福祉関係で1億2,494万5千円、合併市町村特例交付金で1億2,000万円、福祉医療費補助金で1億884万5千円がありました。また、児童福祉関係で5,317万6千円増えたことや農林水産業費補助金が1,918万8千円減ったこと、前年度にあった各種選挙費委託金や国勢調査委託金がなくなったことなどにより前年度比2,290万1千円(3.6%)の増となりました。

市債の主なものは、クリーンセンター改修に伴う一般廃棄物処理事業債で1億4,930万円、防災行政無線設置事業債で9,000万円、追分小学校体育館増改修事業債で9,400万円、臨時財政対策債で5億2,830万円があり、これらにより前年度比7,840万円(8.5%)の増となりました。

歳出の主なものでは、人件費が25億3,009万5千円、扶助費が17億5,262万7千円、公債費が17億6,038万1千円で、これら義務的経費の合計で60億4,310万3千円となりました。投資的経費は12億465万7千円で、主なものは、クリーンセンター改修工事が1億6,590万円、追分小学校体育館増改修事業が1億4,642万2千円、道路整備事業が2億9,192万6千円、豪雪災害等の災害復旧事業が1億1,595万3千円となり、これらにより前年度比3億8,471万1千円(46.9%)の増となりました。

(1) 平成18年度一般会計の決算状況

1. 総括

(単位：千円)

区 分	平成18年度	平成17年度	増減額
予 算 現 額	12,719,941	13,199,154	479,213
歳 入 決 算 額	12,910,588	13,291,154	380,566
歳 出 決 算 額	12,363,403	12,878,824	515,421
歳入歳出差引額	547,185	412,330	134,855
実 質 収 支 額	537,726	401,170	136,556
単 年 度 収 支 額	136,556	130,152	266,708

2. 歳入

歳入総額は12,910,588千円ですが、その主なものは次のとおりです。

(単位：千円、%)

区 分	平成18年度	平成17年度	増 減 額	増 減 率
市 税	2,290,770	2,311,583	20,813	0.9
地 方 交 付 税	5,719,503	5,999,006	279,503	4.7
国 庫 支 出 金	1,034,491	1,208,172	173,681	14.4
県 支 出 金	662,476	639,575	22,901	3.6
市 債	997,900	919,500	78,400	8.5
歳 入 計	12,910,588	13,291,154	380,566	2.9

3. 歳出

歳出総額は12,363,403千円ですが、性質別の主なものは次のとおりです。

(単位：千円、%)

区 分	平成18年度	平成17年度	増 減 額	増 減 率
人 件 費	2,530,095	2,657,014	126,919	4.8
扶 助 費	1,752,627	1,598,908	153,719	9.6
公 債 費	1,760,381	1,763,850	3,469	0.2
投 資 的 経 費	1,204,657	819,946	384,711	46.9
歳 出 計	12,363,403	12,878,824	515,421	4.0

これらの構成比は、人件費 20.5%、扶助費14.2%、公債費 14.2%、投資的経費 9.7%となっています。

( 2 ) 市税の収納状況

( 単位：千円、% )

区 分		現年度分	滞納繰越分	計
調定額	1 8 年 度	2,317,954	236,496	2,554,450
	1 7 年 度	2,341,602	220,528	2,562,130
	増 減	23,648	15,968	7,680
収入済額	1 8 年 度	2,251,593	39,177	2,290,770
	1 7 年 度	2,276,383	35,200	2,311,583
	増 減	24,790	3,977	20,813
収入率	1 8 年 度	97.1	16.6	89.7
	1 7 年 度	97.2	16.0	90.2
	増 減	0.1	0.6	0.5

雇用情勢の悪化や自営業者の経営不振・企業倒産等が引き続いており、依然として市税の収納は厳しい状況にあり現年度分の収納率は前年度に比較し0.1%減となっております。滞納繰越分については納付指導による分割納付の増加及び不動産差押・債権差押等の強化により0.6%の増となっています。所得の減少から新たに滞納する者や長期間滞納するものも増加してきており全体の収入率としては年々低下の傾向にあります。なお、今年度の不納欠損処理は13,324,735円で滞納処分の執行停止額は7,681,773円でありました。

今後も納税の秩序を維持し税の公平を貫くため、財産調査と滞納処分を強化するとともに生活困窮者には滞納処分の執行停止等の処理を適切に行い、滞納者の減少に努めていきます。

### (3) 主要施策の状況

主な投資的事業の内容は次のとおりです。

クリーンセンター排ガス冷却塔及び空気予熱機等更新工事を1億6,590万円で実施し、老朽化したごみ処理施設の処理能力を回復することができました。

昭和、飯田川地区を中心に防災行政無線施設を9,535万8千円で整備し、市全域に災害時の放送や行政放送が同時に運用できるようになりました。

市道整備事業では、街道下線が道路舗装改良工事61mと用地取得費等で1億845万6千円、江川天王線道路維持舗装工事2,362mで5,455万円、大清水下谷地線の橋梁架け替えに係る概略設計735万円、二田踏切拡幅に係る予備設計231万円などを実施しました。

また、平成17年度の豪雪を教訓に、除排雪体制の整備費補助金2,015万円を交付し、ロータリ除雪車等7台を整備しました。

追分小学校体育館の増築及び大規模改造、地震補強工事を1億4,642万2千円で実施し、耐震性の向上と児童数の増加に対応することができました。

平成17年度豪雪により破損した施設を9,327万3千円で復旧しました。

主なソフト事業は以下のとおりです。

国体競技開催準備事業は6,394万円で、相撲競技リハーサル大会である全国教職員相撲選手権大会を開催したほか、兵庫国体の視察や、民泊協力会の設立などの準備を行いました。

新市としての道路台帳を6,315万円で整備しました。

企業誘致活動は昭和工業団地の管理費を含めて356万円で、1社の進出がありました。

また、国の合併補助金を活用した事業では、道路台帳整備のほか地域防災計画の策定や都市計画基本方針の策定、国土利用計画の策定、し尿処理施設の統合など総額1億9万1千円となりました。

## 2 . 国民健康保険事業特別会計

平成18年度の国民健康保険事業特別会計当初予算額は32億501万2千円で、の後補正増額され最終予算額は34億4,925万7千円となりました。

歳入決算額は33億7,580万円、歳出決算額は33億7,006万7千円、収支は573万3千円となりました。基金の額は1億6,040万円です。

歳入の主なものとしては、保険税が8億5,042万6千円で歳入全体の21.2%、国庫支出金が10億8,429万3千円で歳入全体の32.1%、療養給付金交付金が6億8,052万6千円で歳入全体の20.2%、県支出金が1億5,401万2千円で歳入全体の4.6%、繰入金が2億7,667万6千円で歳入全体の8.2%となりました。

歳出の主なものとしては、保険給付費が総額22億3,433万5千円です。内訳としては、一般被保険者分が14億3,571万円、退職被保険者分が7億6,491万円でした。

保険給付費では、疾病治療のため療養の給付を行ったほか、出産に際しては出産一時金1,210万円を、死亡に際しては葬祭費1,326万円を支給しました。保健事業では、956万5千円のうち人間ドックを107人分、559万2千円で実施し、被保険者の健康意識の高揚に努めるとともに、疾病の早期発見・早期治療に努めました。また、老人医療費拠出金が6億3,558万5千円、介護納付金が2億487万7千円となりました。

加入者及び医療費の状況としては、対前年比で世帯数が12世帯の増、被保険者数103人の減となりました。一人当たり医療費の状況は、一般被保険者分が246,400円で対前年比13,665円の減、退職被保険者分が404,019円で対前年比33,359円の増です。

## (1) 加入者の状況

### イ. 年間平均世帯数 (単位: 世帯)

区分	一般被保険者 者単独世帯	混合世帯	退職被保険者 者単独世帯	合計
平成17年度	4,939	388	868	6,195
平成18年度	4,807	413	987	6,207
増減	132	25	119	12

### ロ. 年間平均被保険者数 (単位: 人)

区分	一般被保険者			退職 被保険者	合計
	老人以外	老人医療対象者	合計		
平成17年度	7,298	2,931	10,229	2,242	12,471
平成18年度	7,204	2,831	10,035	2,333	12,368
増減	94	100	194	91	103

## (2) 保険税の状況

### 一世帯当たり及び一人当たり保険税 (単位: 円)

区分	調定額	一世帯当たり 金額	被保険者一人 当たり金額
平成17年度	912,658,700	147,322	73,182
平成18年度	900,825,500	145,131	72,835
増減	11,833,200	2,191	347

## (3) 医療費の状況

### イ. 一般被保険者分 (老人以外) (単位: 円)

区分	療養給付費 費用額	療養費 費用額	総医療費	一人当たり 医療費
平成17年度	1,879,481,982	18,035,403	1,897,517,385	260,005
平成18年度	1,754,242,601	20,391,516	1,774,634,117	246,340
増減	125,239,381	2,356,113	122,883,268	13,665

### ロ. 退職被保険者等分 (単位: 円)

区分	療養給付費 費用額	療養費 費用額	総医療費	一人当たり 医療費
平成17年度	823,893,858	7,124,781	831,018,639	370,660
平成18年度	934,129,680	8,447,611	942,577,291	404,019
増減	110,235,822	1,322,830	111,558,652	33,359

### ハ. 老人医療対象者分 (単位: 円)

区分	療養給付費 費用額	療養費 費用額	総医療費	一人当たり 医療費
平成17年度	2,471,204,904	15,202,808	2,486,407,712	848,314
平成18年度	2,463,564,599	17,533,045	2,481,097,644	876,403
増減	7,640,305	2,330,237	5,310,068	28,089

注) 療養給付費は入院・通院・歯科・調剤・訪問看護・施設療養費  
療養費は整骨院・補装具等

### 3. 老人保健特別会計

平成18年度老人保健特別会計当初予算額は36億93万1千円で、その後増額補正され36億5,949万6千円となりました。

歳入決算額は34億9,616万7千円、歳出決算額は34億9,903万円、実質収支は286万3千円の赤字となりました。この不足分については平成19年度同会計を補正し繰上充用しました。

歳入の主なものとしては、支払基金交付金が18億9,742万9千円で歳入全体の54.3%、国庫支出金が10億4,973万6千円で歳入全体の30.0%、県支出金が2億6,731万6千円で歳入全体の7.6%、一般会計繰入金金が2億8,010万5千円で歳入全体の8.0%となりました。

歳出の主なものとしては、医療諸費が34億4,046万5千円で歳出全体の88.3%となりました。

#### (1) 対象者の状況

(単位：人、%)

区 分	人 口	75歳以上	65歳以上 75歳未満	合 計	加入率
平成17年度	35,980	4,084	231	4,315	12.0
平成18年度	35,781	3,850	266	4,116	11.5
前年度対比	199	234	35	199	0.5

#### (2) 老人医療給付費の状況

(単位：千円)

区 分	現 物 給 付	現金給付	総 医 療 費	一人当 り医療費
平成17年度	3,404,816	41,999	3,446,815	799
平成18年度	3,383,750	42,679	3,426,429	832
前年度対比	21,066	680	20,386	33

注) 現物給付は入院、通院・歯科・調剤の合計。

現金給付は、整骨院・補装具等の合計。

## 4．介護保険事業特別会計

平成18年度介護保険事業特別会計当初予算額は20億8,185万5千円で、その後補正増額され最終予算額は21億1,236万6千円となりました。

歳入決算額は21億653万8千円、歳出決算額は20億6,228万7千円、実質収支額は4,425万1千円となりました。

歳入の主なものとしては、保険料が3億7,709万5千円で歳入全体の17.9%、国庫支出金が4億7,440万7千円で歳入全体の22.5%、支払基金交付金が6億464万1千円で歳入全体の28.7%、県支出金が2億9,688万9千円で歳入全体の14.1%、繰入金が2億9,662万9千円で歳入全体の14.1%となりました。

歳出の主なものとしては、保険給付費が19億2,735万7千円で歳出全体の93.5%、総務費が5,025万6千円で歳出全体の2.4%、基金積立金が2,193万7千円で歳出全体の1.1%となりました。

保険給付費の内訳としましては、介護サービス等諸費が18億927万9千円で保険給付費全体の93.9%、介護予防サービス等諸費が157万円で保険給付費全体の0.1%、また、低所得者の利用者負担軽減措置としての特定入所者介護サービス費は8,207万3千円で保険給付費全体の4.3%となりました。

平成18年度から新たに創設された要介護になるおそれのある方への介護予防サービスの提供と高齢者が地域で継続した生活を送るための地域支援事業費の内訳は、介護予防事業費が508万7千円で、包括的支援事業・任意事業費が419万1千円となりました。

## (1) 加入者の状況

(単位:人)

区 分	第1号被保険者		第2号被保険者		合計	
	総 数	内認定者数	総 数	内認定者数	総 数	内認定者数
平成17年度	7,894	1,473	13,160	67	21,054	1,540
平成18年度	8,150	1,580	12,993	51	21,143	1,631
増 減	256	107	167	16	89	91

## (2) 保険料の状況

(単位:千円)

区 分	調 定			収入済額		普通徴収分 収納率(%)
	総 数	普通徴収	特別徴収	総 数	普通徴収	
平成17年度	380,315	37,901	322,414	373,187	50,773	87.7
平成18年度	382,208	53,427	328,781	375,156	46,375	86.8
増 減	1,893	15,526	6,367	1,969	8,260	

## (3) サービス受給者の状況

(単位:千円)

区 分	居宅サービス		施設サービス				合 計
	総 数	内要支援	総 数	老人福祉施設	老人保健施設	療養型医療	
平成17年度	9,599	549	3,835	1,660	2,137	38	13,434
平成18年度	9,633	490	3,858	1,658	2,200	0	13,491
増 減	34	59	23	2	63	38	57

## (4) 介護サービスの利用状況

## イ. 介護・支援サービス給付費

(単位:千円)

区 分	訪問・通所	地域介護 (グループホームほか)	施設 (特養・老健)	特定入所 (食事負担分)	その他	合 計	受給者一人 当たり給付費
平成17年度	609,573	86,045	1,053,555	31,268	107,927	1,888,368	141
平成18年度	653,376	117,070	932,263	82,073	142,575	1,927,357	143
増 減	43,803	31,025	121,292	50,805	34,648	38,989	2

## ロ. 居宅介護(支援)サービス費内訳

(単位:千円)

区 分	訪問系	通所系	短期入所	その他	合 計	受給者一人 当たり給付費
平成17年度	127,756	346,505	88,099	223,319	785,679	82
平成18年度	144,598	367,542	91,767	274,679	878,586	91
増 減	16,842	21,037	3,668	51,360	92,907	9

## ハ. 施設介護サービス費内訳

(単位:千円)

区 分	老人福祉施設	老人保健施設	療養型医療	合 計	受給者一人 当たり給付費
平成17年度	410,625	533,074	12,786	956,485	249
平成18年度	392,955	539,402	0	932,357	242
増 減	17,670	6,328	12,786	24,128	7

## 5 . 有線放送事業特別会計

平成18年度有線放送事業特別会計の当初予算は4,400万6千円で、その後補正増額され最終予算は4,536万円となりました。

歳入決算額は4,516万7千円、歳出決算額は4,479万4千円で、実質収支は37万3千円となりました。

歳入の主なものとしては、使用料及び手数料が1,782万3千円で歳入全体の39.5%、一般会計繰入金が2,588万2千円で歳入全体の57.3%となりました。

歳出の主なものは、総務費が2,062万5千円、公債費が2,032万3千円です。

( 1 ) システム構成

- ・ 2局分散方式 ( 本局 - 700回線、分散局 - 600回線 )  
( 本局、分散局間は光ケーブル )
- ・ ケーブル延長 32.8 km ( うち光ケーブル 2.4 km )
- ・ 自己柱 130本
- ・ 共架柱 ( 電力柱 - 791本、NTT柱 - 157本 )

特 徴

- a . 地区別 グループ別放送他、電話機からのページング放送
- b . キャッチホンサービス ( フックボタン )
- c . 3者通話 ( フックボタンと相手の番号 )
- d . チャンネル放送 ( 5CH ) [ 100HZ ~ 10,000HZ ]  
1CH - 431 2CH - 432 3CH - 433 4CH - 434 5CH - 435

( 2 ) 使用料及び手数料

基本料金	月額	1,100円
度数料金	1回	5円
付加使用料	1台	400円
放送手数料 ( 広告放送 )		
市内	3回	500円
市外	1回目	2,500円
	2回目以降	1,500円

\* 現在の通話回数利用状況 ( 1日1戸平均 ) ..... 1.22回  
( 昨年同期 1.21回 )

( 3 ) 加入者の状況

( 単位 : 戸、% )

区 分	戸 数	加入世帯数	加入率
平成16年度	1,530	1,202	78.6%
平成18年9月末	1,545	1,196	77.4%
前年度対比	12	6	1.2%

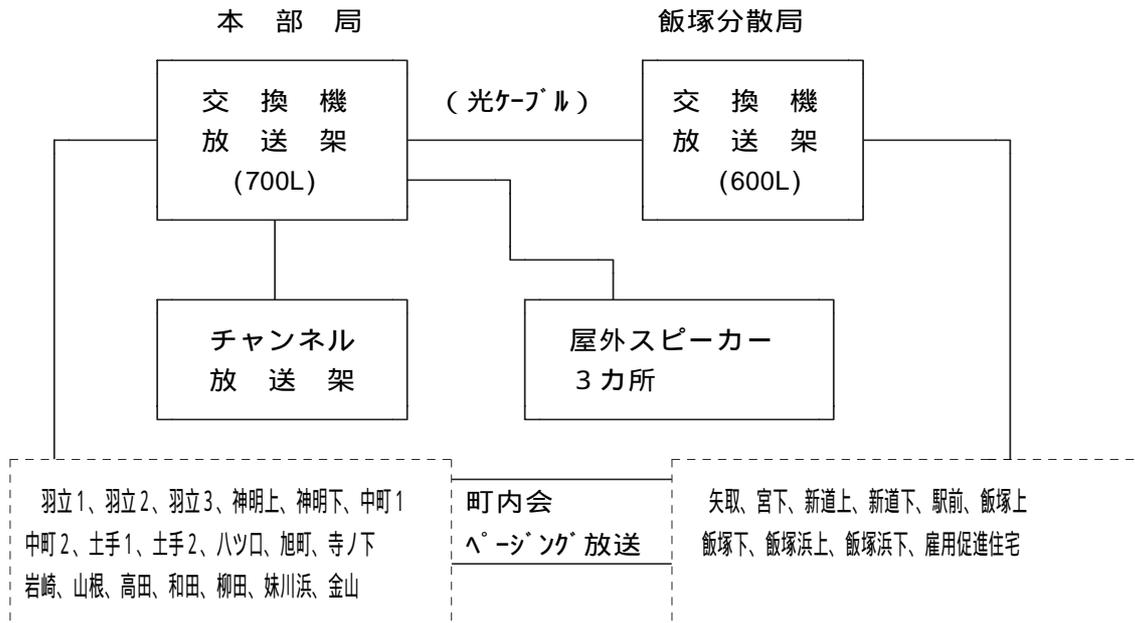
( 4 ) 放 送 時 間

定時放送	1日	4回
	朝	6時50分
	昼	12時30分
	3時	15時00分
	夜	18時45分

(5) 録音・案内設備(テレホンサービス)

(1) 毎日の放送を録音.....	3 9 3 9 番	(3回線)
(2) 録音番組(CD情報).....	0 番	(3回線)
(3) 小学校だより.....	8 番	(3回線)
(4) センターだより.....	8 番	(3回線)
(5) 臨時のお知らせ.....	4 4 4 番	(5回線)
(6) 農業指導センター情報.....	9 番	(3回線)
合 計 .....		20回線

(6) 線路系統図



@ グループページング放送システム

(7) 各施設の代表番号

潟上市IP電話への接続

発信は7とIP電話番号

IP電話からは91と有線電話番号

市飯田川庁舎.....	1 1 4 番 5 0 0 0 番
保健福祉センター .....	1 1 1 番
介護支援センター .....	1 1 2 番
J A 秋田湖東飯田川支所.....	1 1 6 番
八郎潟ハイツ.....	3 9 0 0 番
飯田川小学校.....	2 1 7 1 番
特別老人ホームわかば園.....	5 6 7 8 番
羽城中学校.....	2 1 8 1 番
昭和飯田川商工会.....	2 0 9 1 番

(8) 携帯電話や固定電話からの接続

0 1 8 ( 8 7 7 ) 2 5 8 5 有線番号をプッシュしてください

## 6 . 農業集落排水事業特別会計

平成18年度農業集落排水事業特別会計当初予算額は、1億3,726万8千円で、その後75万3千円補正増額され最終予算額は1億3,802万1千円となりました。

歳入決算額は1億3,809万円9千円、歳出決算額は1億3,513万9千円で実質収支は296万円となりました。

歳入の主なものとしては、一般会計からの繰入金が9,377万9千円で歳入全体の67.9%、農業集落排水施設使用料が2,273万1千円で16.5%、受益者分担金が1,029万円7千円で7.5%となりました。

平成18年度末の加入戸数は735戸となっています。

### (1) 集落排水事業整備の状況

区 分	総 面 積 (ha)	処理計画面積 (ha)	処理区域面積 (ha)	整 備 率 (%)
平成17年度	9,796	139	137	98.6
平成18年度	9,796	139	137	98.6
前年度対比				

区 分	総 人 口 (人)	処理計画人口 (人)	処理区域人口 (人)	普 及 率 (%)
平成17年度	36,107	4,550	3,153	8.7
平成18年度	35,889	4,550	3,095	8.6
前年度対比	218		58	0.1

区 分	水 洗 化 人 口 (人)	水 洗 化 率 (%)	本 管 延 長 (km)	
平成17年度	2,400	76.1	32	
平成18年度	2,458	79.4	32	
前年度対比	58	3.3		

## 7. 下水道事業特別会計

平成18年度下水道事業特別会計当初予算額は、16億8,596万8千円で、その後5,350万3千円補正増額され最終予算額は17億3,947万1千円となりました。

歳入決算額は17億4,062万2千円、歳出決算額は17億775万3千円、歳入歳出差引額は、3,286万9千円で、平成19年度への繰越財源3万2千円を差し引いた実質収支は3,283万7千円となりました。

歳入の主なものとしては、一般会計からの繰入金が6億3,531万円で歳入全体の36.5%、下水道事業債が5億7,430万円で33.0%、下水道使用料が3億2,140万5千円で18.5%となりました。

歳出では、公共下水道事業費として1億5,733万4千円で管渠1,364m、汚水樹62箇所、特定環境保全下水道事業費として3億4,257万8千円で管渠4,121m、汚水樹162箇所を施工しました。

平成18年度末の供用開始面積は、公共下水道と特定環境保全公共下水道の合計で1,010ha、下水道加入戸数は6,602戸となっています。

### (1) 下水道整備の状況

区 分	総 面 積 (ha)	処理計画面積 (ha)	処理区域面積 (ha)	整 備 率 (%)
平成17年度	9,796	1,558	979	62.8
平成18年度	9,796	1,558	1,010	64.8
前年度対比			31	2.0

区 分	総 人 口 (人)	処理計画人口 (人)	処理区域人口 (人)	普 及 率 (%)
平成17年度	36,107	37,750	25,371	70.3
平成18年度	35,889	37,750	25,849	72.0
前年度対比	218		478	1.7

区 分	水 洗 化 人 口 (人)	水 洗 化 率 (%)	本 管 延 長 (km)	
平成17年度	19,414	76.5	172	
平成18年度	20,295	78.5	177	
前年度対比	881	2.0	5	

## 8 . 合併処理浄化槽事業特別会計

平成18年度合併処理浄化槽事業特別会計当初予算額は、2,354万3千円で、その後181万9千円補正増額され最終予算額は2,536万2千円となりました。

歳入決算額は2,579万5千円、歳出決算額は2,369万2千円で実質収支は210万3千円となりました。

歳入の主なものとしては、合併処理浄化槽事業債が1,150万円で歳入全体の44.6%、国庫支出金が679万6千円で26.3%、受益者分担金が290万9千円で11.3%となりました。

歳出では、合併処理浄化槽事業費として2,038万8千円で合併処理浄化槽を23基設置しております。

平成18年度末の合併浄化槽設置戸数は64戸となっています。

### (1) 合併処理浄化総事業整備の状況

区 分	総 人 口 (人)	処理計画人口 (人)	処理区域人口 (人)	普 及 率 (%)
平成17年度	36,107	727	146	0.4
平成18年度	35,889	727	222	0.6
前年度対比	218		76	0.2

区 分	水 洗 化 人 口 (人)	水 洗 化 率 (%)
平成17年度	146	100.0
平成18年度	222	100.0
前年度対比	76	

## 9 . 豊川財産区特別会計

平成18年度豊川財産区特別会計当初予算額は171万6千円で、その後補正増額され最終予算額は235万円となりました。

歳入決算額は234万6千円、歳出決算額は168万7千円、実質収支は65万9千円となりました。

歳入の主なものとしては、県支出金が84万5千円で歳入全体の36%、繰入金が86万2千円で歳入全体の36.7%となりました。

財産収入では、東北電力㈱の線下(立木)補償で31万4千円がありました。

歳出の主なものとしては、間伐委託料95万9千円、財政調整基金積立金63万4千円となりました。

## 10 . 下虻川財産区特別会計

平成18年度下虻川財産区特別会計当初予算額は58万7千円で、その後補正増額され最終予算額は110万5千円となりました。

歳入決算額は116万5千円、歳出決算額は74万9千円で、実質収支は41万6千円となりました。

歳入の主なものは繰越金が51万5千円で、歳出の主なものは財政調整基金積立金が51万8千円です。

## 11 . 和田妹川財産区特別会計

平成18年度和田妹川財産区特別会計当初予算額は56万5千円で、その後補正増額され最終予算額は83万2千円となりました。

歳入決算額は89万5千円、歳出決算額は60万6千円で、実質収支は28万9千円となりました。

歳入の主なものは財産貸付収入が34万4千円で、歳出の主なものは財政調整基金積立金が26万7千円です。

## 12 . 飯塚財産区特別会計

平成18年度飯塚財産区特別会計当初予算額は72万8千円で、その後補正増額され最終予算額は122万7千円となりました。

歳入決算額は122万6千円、歳出決算額は83万7千円で、実質収支は38万9千円となりました。

歳入の主なものは繰越金が49万8千円で、歳出の主なものは財政調整基金積立金が49万9千円です。

### 1 3. 土地取得事業特別会計

平成18年度土地取得事業特別会計当初予算額及び最終予算額は2,364万4千円でした。

歳入決算額は2,364万4千円、歳出決算額は2,364万3千円で、実質収支は1千円となりました。

歳入の主なものは一般会計繰入金で2,330万9千円で歳入全体の98.6%となりました。

歳出の主なものは、土地開発公社償還金が2,364万3千円となりました。

### 1 4. 水道事業会計

#### (1) 給水状況

本年度末における給水戸数は10,247戸、給水人口は29,512人で、前年度末と比較してそれぞれ129戸、158人増加しました。なお、普及率は給水区域内で90.12%となりました。

年間総配水量は3,108,825 $\text{m}^3$ となり、一日最大配水量は11,191 $\text{m}^3$ 、施設能力

(12,735 $\text{m}^3$ /日)に対する最大稼働率は、87.9%になりました。

年間有収水量は2,611,130 $\text{m}^3$ で、有収率は83.99%となり前年度と比較して0.5ポイント減少しております。

#### (2) 工事状況

建設改良工事は、水道管路近代化事業の国庫補助金を最大限活用しながら老朽管更新工事(延長3,673.4m)を実施しました。

また、施設改良工事として、取水井戸の掘り抜き、ろ過機改修、計装設備の更新等を実施しました。

#### (3) 財政状況

本年度の水道事業収益は558,368,867円、経常費用は517,956,624円、特別損失2,082,979円で38,329,264円の純利益が生じました。

また、資本的収支については収入額253,209,062円、支出額483,468,580円(消費税込)で、資本的収支の不足額230,259,518円は、過年度損益勘定留保資金121,719,111円、過年度資産減耗費652,637円、過年度繰延勘定償却21,639,581円、過年度損益修正損3,410,368円、過年度繰越利益剰余金処分額28,000円、過年度利益剰余金処分額569,958円、当年度資本的収支調整額15,893,050円、当年度損益勘定留保資金66,346,813円で補てんしました。

以上が本年度の概況であります。最近の経済状況や利用者の節水意識等を反映し、給水収益も減少傾向にあります。一方、老朽化した施設の更新、市民に安全で安定した水を供給するための建設改良事業の増加が見込まれることから、今後も適切な事業選択とより一層の経費の節減など、効率的な事業経営に努めてまいります。